

一斉設定書き込みソフト

MRC-Setting

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

はじめに

弊社製品をご利用ありがとうございます。

本ソフトウェアには以下の機能があります。

- ・同一 LAN 内の複数台リブーターの検出
- ・同一 LAN 内の複数台リブーターへの Telnet 通信での設定書き込み


同一 LAN 内に存在するリブーターを検出してリストアップできます。
その後、リブーターリストを csv 保存することができます。

また、リストアップされた個々のリブーターに関する情報(IP アドレス, MAC アドレス, 型式, FW バージョンなど)を表示できます。

また、個々のリブーターへの設定変更テキストファイルを指定できます。

目 次

はじめに.....	2
目 次	3
第1章 ご利用の前に.....	4
1. リブーター側での事前設定.....	5
[1] リブーターを初めて設置する場合	5
[2] 既に設置済みのリブーターに対して使用する場合	7
第2章 MRC-Setting	8
1. 各メニュー詳細.....	9
[1] 基本メニュー	10
[2] List 編集.....	11
[3] 個別設定画面	12
[4] 設定メニュー	14
2. リブーターを検出する	15
[1] 検索機能を使用する.....	15
3. リブーターを登録する	17
[1] 手動で登録する.....	17
[2] LIST ファイルから読み込む.....	18
4. 設定を書き込む	19
[1] 設定ファイルの指定.....	19
[2] 設定ファイルの書き込み.....	21
第3章 設定ファイル作成.....	23
[1] 概要.....	24
[2] 設定ファイルの作成.....	25
[3] 作成上の注意	27
[4] 作成例.....	28

A blue oval shape with a thin black border, centered in the upper half of the page. It contains the chapter title in white Japanese text.

第 1 章 ご利用の前に

1. リブーター側での事前設定

本ソフトウェアを使用する前にリブーター側の設定を変更する必要があります。

[1] リブーターを初めて設置する場合

初期化したリブーターを設置する場合も同手順で作業を行ってください。

- 1) 設定用 PC とリブーターを直接 LAN ケーブルで接続します。
製品正面または上面に DIP スイッチがある機種については、DIP スイッチ 3 を ON にしてください。
- 2) リブーターの電源ケーブルをコンセントに接続し電源を入れます。製品正面または上面にスイッチがある機種についてはスイッチを ON にして電源を入れます。
- 3) 設定用 PC でブラウザを開き、192.168.10.1 にアクセスします。
接続できない場合は、PC の設定から「アダプターのオプション」を変更してください。
- 4) 「ご確認のお願い」が表示されます。内容をご確認の上「上記の内容に同意します」にチェックを入れ「次へ」をクリックしてください。

機種により、同意後の表示画面が異なります。

(1) 簡易状態表示画面が表示される機種

- 1) メインメニューの「ネットワーク設定」を開きます。

ネットワーク基本設定	
IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバーアドレス	
DHCP設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	80
HTTP認証方式	Digest ▼
Telnetサーバー機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
Telnetポート	23
通信速度	自動接続 ▼
RPCサーチ	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
自動ログアウト	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

- 2) Telnet サーバー機能を有効にします。
同時に、IP アドレス等のネットワーク設定を行うことが可能です。
DHCP 機能を利用する場合は、DHCP 機能を有効にしてください。
- 3) [適用]をクリックし、メインメニューの「CPUリセット」から CPU リセットを行います。

(2) メンテナンスモード画面が表示される機種

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	RPC-M4HSI
バージョン	4.10A.230710
MAC アドレス	00:00:00:00:00:00
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

- 4) Telnet サーバー機能を有効にします。
同時に、IP アドレス等のネットワーク設定を行うことが可能です。
DHCP 機能を利用する場合は、DHCP 機能を有効にしてください。
[適用]をクリックします。
- 5) DIP スイッチ3を OFF にします。
- 6) RESET ボタンを押し、CPUリセットを行います。

[2] 既に設置済みのリブーターに対して使用する場合

LAN 上検索や設定値の流し込みを行うには、Telnet 機能を有効にする必要があります。
(デフォルト無効)

注意 Telnet 通信有効化の後には CPU リセットが必要です。
一部の機種を除いて CPU リセットを実行するとイベントログが消去されます。
必要に応じて事前にイベントログの保存を行ってください。

- 1) メインメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、「Telnet 機能」を有効にします。

ネットワーク基本設定	
IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバーアドレス	
DHCP設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	80
HTTP認証方式	Digest ▼
Telnetサーバー機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
Telnetポート	23
通信速度	自動接続 ▼
RPCサーチ	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
自動ログアウト	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

- 2) メインメニューの[CPU リセット]で、「CPU リセット」を行います。

注意 電源制御方式を「排他制御方式」かつ一斉電源制御の子機設定がされている場合、本ソフトから接続、設定送信を行うことができません。
電源制御方式を「ガードタイム方式」に変更するか、一斉制御の子機設定を解除してから本ソフトをご利用ください。

A blue oval shape with a thin black border, centered on the page. It contains the chapter title in white text.

第 2 章

MRC-Setting

1. 各メニュー詳細

本項は各メニュー項目の説明となります。

リブーターの検索, 登録, 設定の流し込みを行う手順につきましては本章の 2.以降をご覧ください。



①リブーターリスト

「LAN 上検索」または「手動入力」で追加したリブーターがリストで表示されます。

No : リブーターの表示順で番号が振られます。チェックで接続確認や設定送信を行うことができます。

Name : 本ソフト上で設定した「リスト名称」が表示されます。
(デフォルト値 New Data)

IP address : リブーターの IP アドレスを表示します。

File : 個別に設定している送信ファイルが表示されます。
(デフォルト値 c:¥data¥default.txt)

Model : リブーターの型式とバージョンが表示されます。
バージョン表示をするためには、「LAN上検索」後に一斉接続または個別接続にて「設定確認」を行ってください。

Time : 登録時はリブーターが稼働した時間, 設定確認もしくは設定送信するとリブーターに接続した時間が表示されます。

Message : PC とリブーターの通信結果が表示されます。

#000 OK 正常送信
#000 OK 正常送信(CPURESET)
#104 NG ID/PASS Login Error
#108 NG already exists.
#404 NG Time Out
New data

②Telnet 通信結果

PC とリブーターの通信内容が表示されます。[↑CLS]クリックで消去できます。

③Telnet 通信履歴

PC とリブーターの通信結果が表示されます。[↓CLS]クリックで消去できます。

④操作メニュー

各操作メニューが表示されます。詳細は[1]～[4]をご覧ください。

[1] 基本メニュー

【フィルター】

左側の数字は、「フィルターされた台数」/「リストに登録された台数」です。

テキストボックスに文字を入力して[実行]をクリックすることで、リブーターリストにあるリブーターを検索することができます。

[全表示]クリックで登録されているリブーターを全台数表示することができます。

【グループ指定】

1～3 の各ボタンをクリックすることで、設定済のグループにチェックを入れます。

[全チェック]クリックで表示されているリブーターにチェックを入れます。

[全解除]ですべてのチェックを外します。

【送信方法】

共通 : 「共通送信ファイル」にて指定された「送信ファイル」を送信します。

個別 : リブーターごとに個別設定画面にて指定した「送信ファイル」を送信します。

【共通送信ファイル】

「送信方法」で「共通」を選択した場合に、こちらで指定された設定ファイルが送信されます。

【一斉接続】

リブーターリストにてチェックボックスにチェックを入れた複数台のリブーターに TELNET 接続して、以下の内容を実行できます。

設定確認 : クリックで、チェックしたリブーターすべてから以下の情報を読み込みます。

型式/ファームウェアバージョン/MAC アドレス/機器名称

変数設定一覧テキスト/直近 20 件のログテキスト

また、日時については接続を行った PC の日時が表示されます。

設定送信 : クリックで、チェックしたリブーターすべてに設定ファイルを送信します。

停止 : 一斉接続の「設定確認」「設定送信」中にクリックすると、接続が即時停止します。

【個別接続】

リブーターリストで選択したリブーターに TELNET 接続して、以下の内容を実行できます。

設定確認 : クリックで、選択されたリブーターから以下の情報を読み込みます。

型式/ファームウェアバージョン/MAC アドレス/機器名称

変数設定一覧テキスト/直近 20 件のログテキスト

また、日時については接続を行った PC の日時が表示されます。

設定送信 : クリックで、選択されたリブーターに設定ファイルを送信します。

HTTP 接続 : クリックで選択されたリブーターに WEB アクセスします。ログインするには HTTP 用の ID, パスワードが必要です。

[2] List 編集

【並び替え】

プルダウンメニューを選択し[並び替え]クリックで並び替えることができます。

並び替えを行うと No が振り直されます。

【機器登録】

LAN 上検索 : UDP のブロードキャストパケットを送信して, 同一 LAN 内のリブーターを検索します。

リブーター側にて「ネットワーク設定」-「RPC サーチ」が「有効」になっている必要があります。(デフォルト値:有効)

セキュリティのエラーメッセージが表示された場合は, アクセスを許可してください。

手動入力 : 手入力で IP アドレス, MAC アドレス, 型式などを入力して, リブーターをリストに追加することができます。

【List 操作】

List インポート : 以前に csv 形式で保存しておいたリブーターリストを読み込ませることができます。

List エクスポート : リブーターリストを csv 形式で保存することができます。

【List ファイル】

List インポート, または List エクスポートにて指定したファイルのパスが表示されます。

注意 「LAN 上検索」を行ってもリブーターがリストアップされない場合,
リブーター側のネットワーク設定
本ソフトウェアを使用している PC のネットワーク設定
に誤りがないかをまずはご確認ください。

【List 順編集】

- 選択編集 : リブーターリストでリブーターを選択した状態で[選択編集]をクリックすると、設定内容が表示されます。
- ▲ ▼ : リブーターを選択し、「▲」または「▼」をクリックで移動できます。
- 削除 : リブーターを選択した状態で[削除]をクリックすると、リブーターリストからリブーターが削除されます。

【チェック項目による一括設定】

- グループ化 : リブーターを 3 つまでグループ化することができます。対象のリブーターと設定するグループにチェックを入れ、[グループ化]をクリックして設定します。
- 一斉削除 : 削除したいリブーターにチェックを入れ、[一斉削除]をクリックで削除することができます。

[3] 個別設定画面

リブーターリストのうち、確認したいリブーターをダブルクリックすると表示されます。

The screenshot shows a configuration form for a specific router. The form is organized into several sections. At the top, there are fields for 'No.' (3), '保存名称' (Save Name: MRC0009EE00AA63), and a '強制更新' (Force Update) button. Below these are 'リスト名称' (List Name: no name) and '機器名称' (Device Name). The next section contains 'IPアドレス' (IP Address: 0.0.0.0), 'ポート HTTP' (Port HTTP: 80), and 'TELNET' (23). This is followed by 'ユーザーID' (User ID: admin), 'パスワード' (Password: *****), 'MACアドレス' (MAC Address: 00:ee:80:00:00:00), and '設定項目' (Setting Item: F0000000). Below these are 'model / Ver', '送信ファイル' (Send File: default.txt), 'メッセージ' (Message), and '最終送信' (Final Send). There are checkboxes for 'グループ' (Group) with options 1, 2, and 3. At the bottom, there are buttons for '書込前変数' (Save Before), '通信ログ' (Communication Log), '送信ファイル' (Send File), '書込後変数' (Save After), '機器LOG 20', '設定保存' (Save Setting), and '戻る' (Back).

- No : リブーターリストでの通し番号を表示します。
- 保存名称 : 本ソフトが自動生成するテキストファイルのファイル名です。「書込前変数」等のボタンとリンクしていますので値を変更しないでください。
- リスト名称 : リブーターリストの「Name」欄に表示する名前です。編集可能です。(リブーターの「機器名称(変数:sysName)」とは異なります)
- 機器名称 : リブーターに設定されている機器名称を表示します。
- IP アドレス : リブーターの IP アドレスを表示します。
- ポート HTTP : 「基本」メニューから WEB 表示する際に参照されます。(デフォルト 80) 異なる値を設定している場合は、変更の上「設定保存」してください。
- TELNET : TELNET 通信のポートです。(デフォルト 23) LAN上検索や設定確認, 設定送信の際に参照されます。異なる値を設定している場合は、変更の上「設定保存」してください。
- ユーザーID/パスワード: リブーターとの TELNET 通信に使用する ID/パスワードです。
デフォルト値 ID : admin パスワード : magic
異なる値を設定している場合は、変更の上「設定保存」してください。
- MAC アドレス: リブーターの MAC アドレスが表示されます。

設定項目	: 該当機器に対する当ソフトウェアでの設定状態を表すコードです。(問い合わせの際にこの数値をお伺いすることがあります。)
model / Ver	: TELNET 通信にて VER コマンド実行時に表示されるリブータの型式、ファームウェアバージョンを表示します。
送信ファイル	: 設定変更を行いたい変数値が記されたテキストファイルを指定します。
メッセージ	: 直近の TELNET 通信実行後状態メッセージを表示します。 #000 OK 正常送信 #000 OK 正常送信(CPURESET) #108 NG already exists. #404 NG Time Out New data
最終送信	: 直近の TELNET 通信の実行日時を表示します。(リブータに TELNET にて DATE, TIME コマンド実行したときの応答が表示されます。)
グループ	: チェックを入れることで、1～3 までグループを設定することができます。
書込前変数	: 設定送信前のテキスト内容が表示されます。
書込後変数	: 設定送信後のテキスト内容が表示されます。
通信ログ	: 「接続確認」または「設定送信」実行時の通信ログがテキスト表示されます。
機器 LOG20	: 「設定確認」または「設定送信」実行時の「LOG 20」コマンド(直近 20 件のログ表示をさせるコマンド)のテキスト内容が表示されます。
送信ファイル	: 「送信ファイル」で設定したテキストファイルを、テキストエディタソフトで開き、編集することができます。
初期値	: クリックで各項目に入力されている内容を初期化できます。 (グループのチェックは初期化されません。)

内容の編集を行いましたら[設定保存]をクリックします。
保存せずに戻る場合は[戻る]をクリックします。

[4] 設定メニュー

【設定確認/設定送信オプション】

時刻設定を行う : チェックを入れると「設定確認」, 「接続確認」または「設定送信」を行った際に, 設定 PC の時刻を同期します。

【設定送信】

名称を機器登録 : 設定ファイルを書き込み後に, 元の機器名称を上書きします。
 接続 IP アドレスを登録: : 設定ファイルを書き込み後に, 元の IP アドレスを上書きします。
 DHCP 無効設定 : 設定ファイルを書き込み後に, DHCP 無効に設定します。

注意 設定ファイルにて, ネットワーク関連の設定を誤るとネットワーク障害の原因となります。
 必要に応じて「接続 IP アドレスを登録」「DHCP 無効設定」にチェックを入れて書き込みを行ってください。

WRITE : ファイルを書き込み後に, WRITE コマンドを実行します。
 CPURESET : ファイルを書き込み後に, CPURESET コマンドを実行します。
 終了コマンド送信 wait : 終了コマンド送信の待ち時間です。(デフォルト 2)
 開始コマンド送信 wait : 開始コマンド送信の待ち時間です。(デフォルト 1)
 作業フォルダ : 書き込み前変数や書き込み後変数等のデータが保存されるフォルダのリンクが表示されます。
 フィルター履歴クリア : 「基本」メニューのフィルターのプルダウンメニューに登録された履歴を削除します。

2. リブーターを検出する

設定用の PC をリブーターと同一ネットワーク内に接続します。

検索するリブーターの電源を入れ、設定用の PC から Telnet を有効にする他、必要な設定を行います。

第 1 章 1.リブーター側での事前設定 をご覧ください。

リブーターの設定が完了しましたら、流し込みツール「mrcset.exe」をダブルクリックして起動してください。

[1] 検索機能を使用する

検索機能を使用する為には、リブーター側にて「ネットワーク設定」-「RPC サーチ」が「有効」になっている必要があります。(デフォルト値:有効)

- 1) [List 編集]をクリックします。

- 2) [LAN 上検索]をクリックします。

セキュリティのエラーメッセージが表示された場合は、アクセスを許可してください。

注意 リブーターがリストアップされない場合、以下に誤りがないかご確認ください。

- ・リブーター側のネットワーク設定
- ・本ソフトウェアを使用している PC のネットワーク設定

- 3) ネットワークに接続されているリブーターが一覧で表示されます。
必要に応じて、並び替えを行い、「適用」をクリックします。
「編集内容を適用しますか？」のポップアップが表示されますので、「OK」をクリックします。

注意 本ソフトの仕様上、「LAN 上検索」後は「機器名称」と「model/Ver」が正しく表示されません。「基本」メニューの「設定確認」をクリックしてリブーターとの通信を行うことで正しい表示となります。

また、HTTP ポート、TELNET ポート、ユーザーID、パスワードは自動取得されないため、ソフト側にデフォルト値が設定されています。リブーターのデフォルト値を変更している場合は、リブーターごとに設定を行ってください。

- 4) 各リブーターの TELNET 通信用のユーザーID とパスワードの設定を行います。
あわせて、HTTP ポート、Telnet ポートをデフォルトから変更している場合も設定が必要です。
リブーターリストに表示されているリブーターをダブルクリックして、個別編集画面を開きます。

The screenshot shows a configuration window for a device with No. 5. The fields are as follows:

No	5	保存名称	MRC0009EE00AA63	初期値
リスト名称	New Data			
機器名称	4.20A xxxxxx			
IPアドレス	192.168.1.110	ポート HTTP	80	TELNET 23
ユーザーID	admin	MACアドレス	00:09:EE:00:xxxx	
パスワード	*****	設定項目	F0000000	
model / Ver	RSC-MT4HS			
送信ファイル	c:\data\default.txt			
メッセージ	new data			
最終送信	Start:0005 22:28:09	グループ	1 2 3	
書込前変数	通信ログ	送信ファイル		
書込後変数	機器LOG 20	設定保存	戻る	

以下のデフォルト値から実際の値に変更して「設定保存」をクリックします。

デフォルト値

HTTP ポート :80
Telnet ポート :23
ユーザーID :admin
パスワード :magic (パスワードは入力文字が表示されません)

これらの設定は、LIST ファイルを編集し、読み込むことで設定することも可能です。

3.[2]LIST ファイルから読み込む をご覧ください。

3. リブーターを登録する

自動で検出できない場合や、IP アドレス等、リブーターの設定値が判明している場合は手動で登録することができます。

リブーター側にて「ネットワーク設定」-「RPC サーチ」が「無効」の場合も登録可能です。
(デフォルト値:有効)

[1] 手動で登録する

[List 編集]をクリックします。

[手動入力]をクリックした後、[適用]をクリックします。

リブーターリストに追加されたリブーターをダブルクリックします。

一斉書き込みソフト Ver 0.1 2024/03/14b

No	Name	IP address	File	Model
001	no name	0.0.0.0	default.txt	

No	1	保存名称	MRC00ee80000000	初期値
名称	no name			
IPアドレス	0.0.0.0	ポート HTTP	80	TELNET 23
ユーザーID	admin	MACアドレス	00-ee-80-00-00-00	
パスワード	*****	設定項目	F0000000	
model / Ver				
送信ファイル	default.txt			
メッセージ				
最終送信		グループ	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
書込前変数	通信ログ	送信ファイル		
書込後変数	機器LOG 20	設定保存	戻る	

IP アドレス :リブーターの IP アドレスを入力します。

ポート HTTP:デフォルト 80 から変更している場合はその番号を入力します。

TELNET :Telnet 通信のポートです。

デフォルトの 23 から変更している場合は、その番号を入力します。

ユーザーID :リブーターに TELNET でログインする ID を入力します。

(デフォルト admin)

パスワード :リブーターに TELNET でログインする際のパスワードを入力します。

(デフォルト magic)

[設定保存]をクリックします。

リスト表示されているリブーターをクリックし、選択した状態にします。

No	Name	IP address	File	Model
001	no name	0.0.0.0	default.txt	

「個別接続」の「設定確認」をクリックします。

メッセージ「#000 OK 正常送信」が表示されましたら登録完了です。

[2] LIST ファイルから読み込む

[1]または[2]の手順で登録を行うと, mrcset.exe が保存されているフォルダに, list.csv ファイルが作成されます。

作成された list.csv ファイルを読み込むことで, 異なる設定用 PC でもリブーターの登録を行うことができます。

[List 編集]をクリックします。

[List インポート]をクリックします。

List ファイルを指定し, [開く]をクリックします。

4. 設定を書き込む

書き込む内容によっては設定を書き込んだ後に CPU リセットが必要です。

書き込んだすべてのリブーターに対して一斉に CPU リセットを実行するには、以下の方法があります。

- ・「設定」メニューの「設定送信」メニューで「CPURESET」にチェックを入れる
- ・設定ファイルに CPURESET コマンドを追加する

CPU リセットが行われるとアウトレットの電源状態、接点出力は保持されますが、機種によってはリブーターのイベントログが削除されます。

必要に応じて事前にイベントログのバックアップを行ってください。

[1] 設定ファイルの指定

リブーターごとに書き込む設定ファイルを指定することができます。個別設定画面で指定するほか、書き出した List ファイルを編集して読み込ませることで、一括で指定することができます。

(1) 1 台ごとに設定する


リストに表示されたリブーター1 台ごとに書き込むファイルの指定が可能です。

1 台ごとに異なるファイルを書き込む場合は、「基本」メニューの「送信ファイル指定」の「個別」を指定してください。

リブーターリストで、設定するリブーターをクリックします。

MRC-Setting					
No	Name	IP address	File	Mode	
001	New Data	192.168.1.170	default.txt	RSC-MT8FS 4.2	
002	New Data	192.168.1.110	default.txt	RSC-MT4HS 4.2	
003	New Data	192.168.1.216	default.txt	RPC-5NC 4.20T	
004	New Data	192.168.1.16	default.txt	PoE8M2 4.20A	

「個別設定画面」にて、「送信ファイル」右側のフォルダマークをクリックし、書き込むファイルを指定したのち「設定保存」をクリックします。

No	3	保存名称	MRC0009EE0157BE	初期値
リスト名称	New Data			
機器名称	NoName			
IPアドレス	192.168.1.xxx	ポート HTTP	80	TELNET 23
ユーザーID	admin	MACアドレス	00:09:EE:xxxxxx	
パスワード	*****	設定項目	F0000001	
model / Ver	RPC-5NC 4.20A xxxxxxxx/NM xxxxxxxx			
送信ファイル	c:\data\default.txt			
メッセージ	#000 OK 正常送信			
最終送信	2024/04/30 14:54:45	グループ	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
書込前変数	通信ログ	送信ファイル		
書込後変数	機器LOG 20			
設定保存			戻る	

(2) List ファイルを使用して 1 台ごとに指定する

[List 編集]-[List エクスポート]で、登録したリブーターの List ファイルを保存します。
保存された List ファイルを開き、L 列を編集します。

(3) すべてのリブーターに同じファイルを送信する

(1)または(2)の方法でリブーターごとに個別のファイルを指定していても、共通の設定ファイルを送信することができます。

すべてのリブーターに同じ設定ファイルを書き込む場合は、「基本」メニューの「共通送信ファイル」にて設定ファイルを指定の上、「送信方法」の「共通」を指定してください。

The screenshot shows the 'List 編集' (List Edit) screen with the following elements:

- Navigation tabs: 基本, List 編集 (active), 設定
- Filter section: フィルター 4 / 4, 実行, 全表示
- Group selection: グループ指定 1, 2, 3, 全チェック, 全解除
- Transmission method section (highlighted with a yellow box):
 - 送信方法: ☒ 共通, ☐ 個別
 - 共通送信ファイル: [Text input field] [File icon]

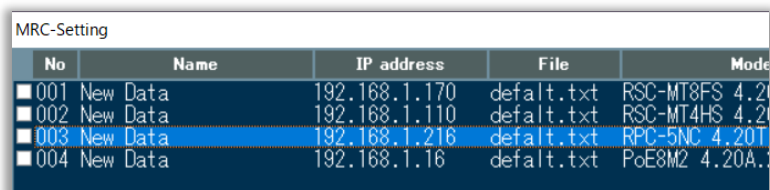
[2] 設定ファイルの書き込み

1 台に書き込む他に、複数台に一度に書き込むことができます。複数台に書き込む場合は、事前に個別に設定した異なる設定ファイルを書き込むだけでなく、同じ設定ファイルを一括で書き込むことができます。

(1) 1 台だけに設定を書き込む

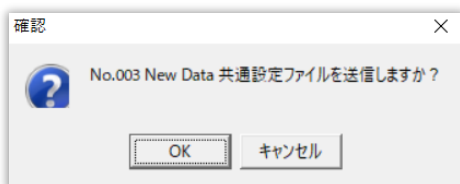
[基本]メニューをクリックします。

リブーターリストで、送信するリブーターをクリックします。



No	Name	IP address	File	Mode
001	New Data	192.168.1.170	default.txt	RSC-MT8FS 4.2
002	New Data	192.168.1.110	default.txt	RSC-MT4HS 4.2
003	New Data	192.168.1.216	default.txt	RPC-5NC 4.20T
004	New Data	192.168.1.16	default.txt	PoE8M2 4.20A

「個別接続」の[設定送信]をクリックすると確認のポップアップが表示されますので [OK]をクリックします。



送信が完了するとポップアップが表示されますので、[OK]をクリックします。

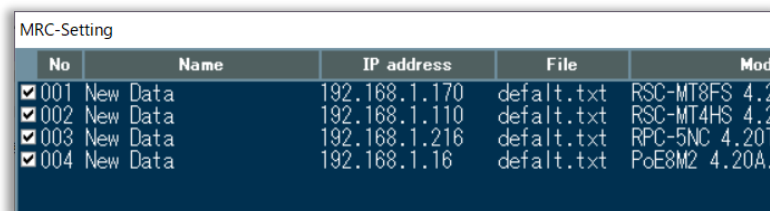


(2) 複数台に設定を書き込む

[基本]メニューをクリックします。

送信先リブーターのチェックボックスにチェックを入れます。

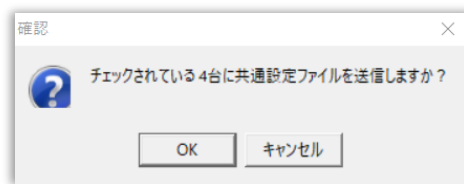
[全チェック]をクリックすると、すべてのリブーターにチェックを入れることができます。



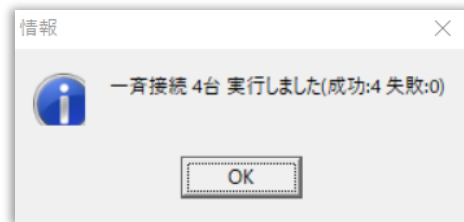
No	Name	IP address	File	Mode
<input checked="" type="checkbox"/> 001	New Data	192.168.1.170	default.txt	RSC-MT8FS 4.2
<input checked="" type="checkbox"/> 002	New Data	192.168.1.110	default.txt	RSC-MT4HS 4.2
<input checked="" type="checkbox"/> 003	New Data	192.168.1.216	default.txt	RPC-5NC 4.20T
<input checked="" type="checkbox"/> 004	New Data	192.168.1.16	default.txt	PoE8M2 4.20A


「一斉接続」の[接続確認]をクリックし、書き込み予定のリブーターに「#000 OK 正常送信」が表示されるか確認してください。表示されない場合は、本ソフトかリブーターの設定値または通信状況に問題がありますので修正を行ってください。

「一斉接続」の「設定送信」をクリックすると確認のポップアップが表示されますので [OK] をクリックします。



送信が完了するとポップアップが表示されますので, [OK] をクリックします。



A blue oval shape with a thin black border, centered on the page. It contains the chapter title in white text.

第3章

設定ファイル作成

[1] 概要

設定ファイルの作成は、テキストエディタを使用し、以下の内容を記載します。

.変数名=値

変数名と値については、各リブーターの詳細取説巻末に記載された変数一覧表をご覧ください。

スクリプトの書き込みを行う場合は、スクリプトの前後に以下のコマンドを追加します。

SCRIPT [スクリプト番号 1～4の数字]

スクリプト本文

ENDSCRIPT

【対応機種:RPC-M5CS,M4LS,M4HSi,5NC。PoE8M2 の PoE ハブ制御スクリプトに関しては SCRIPT 3～6 に書き込むことで可能です。[RSC-MT4HS,MT8FS, RPC-5NCSi, 2NCPoE は非対応です。】

その後に「WRITE」コマンド、必要に応じて「CPURESET」コマンドを最後に記載します。

「WRITE」コマンド、「CPURESET」コマンドについては、「設定」メニューの「設定送信」にてチェックを入れることで省略することができます。

作成例については、本章の[4]をご覧ください。

WEB メニューまたは Telnet 通信等から設定を行ったリブーターから、設定ファイルの元となるデータの書き出しを行い、それを編集することにより設定ファイルを作成することもできます。

元となるデータの書き出しには Telnet 通信や、シリアル通信(対象機種のみ対応、オプションケーブル要)ができる環境が必要です。

設定ファイルの元データを書き出すリブーターと、書き込み先のリブーターの型式やファームウェアバージョンが異なる場合、設定を書き込んでも反映されない、または意図しない動作の原因となります。同じ型式かつ同じファームウェアバージョンのリブーターでの設定ファイル作成をお勧めいたします。

また、設定ファイルを作成した際には本環境に設置されたリブーターに書き込む前にテスト環境で書き込みを行い、意図通りの設定となっているか動作確認を行ってください。

書き込む内容によっては設定を書き込んだ後に CPU リセットが必要となります。

CPU リセットが行われるとアウトレットの電源状態、接点出力は保持されますが、機種によってはリブーターのイベントログが削除されます。

[2] 設定ファイルの作成

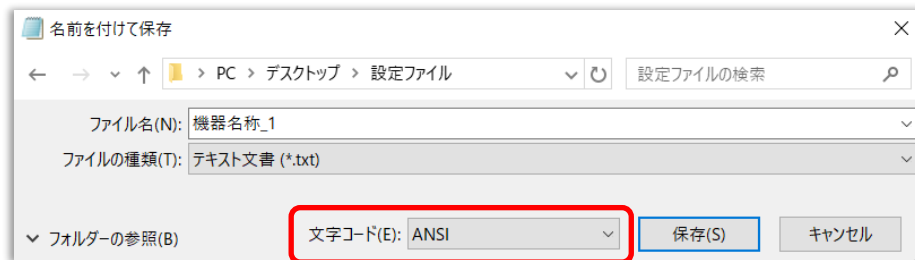
リブーターに設定を行ってから設定を書き出して編集を行う方法と、直接テキストファイルを編集して作成する方法があります。

(1) 文字コードについて

「アウトレット名」や「設置場所」などの設定項目に日本語名を設定している場合、文字コードは「Shift-JIS」で保存してください。

(以下、本書では SJIS と記載します)

Windows のメモ帳の場合は「ANSI」を指定してください。



(2) リブーターから書き出す方法

〈1〉 リブーター設定

設定用 PC からリブーターにアクセスし、ブラウザや Telnet 通信等でリブーターの設定を行います。

〈2〉 設定書き出し

Telnet 通信やシリアル通信で、設定を行ったリブーターにログインします。

「&SAVE」コマンドを実行し、設定内容を書き出します。

```
ID:
Password:
OK
Noname> LOAD_BEGIN
.ipAdEntAddr= 1.1.1.1
.sysName= "Noname"
.snmpGetSetEnabled=0
.snmpTrapEnabled=0
.snmpAuthenTrapEnabled=2
.snmpTrapSendN=1
.snmpTrapSendInterval=1
.snmpTrapAddr=
.getCommunity= "pub"
.setCommunity= "pub"
.trapCommunity= "pub"
```

「LOAD_BEGIN」から「LOAD_END」までの間の、「.(ピリオド)」で始まる変数と設定値をコピーしてテキストエディタに貼り付けます。

〈3〉 書き出したデータの編集

テキストエディタで編集を行います。

設定を行う変数と値のみ残し、その他の変数と値を削除します。

各変数の内容については、詳細取扱説明書巻末にあります、変数一覧表をご覧ください。

書き込みを行うためには、変数の前に「.(ピリオド)」が必要です。
「&SAVE」コマンドで書き出した場合はあらかじめ「.(ピリオド)」が追加された状態となっていますので削除しないでください。
また、一部のパスワードは設定書き出しコマンドでは表示されませんので、追記する必要があります。

最後に WRITE コマンドを記入します。
作成したファイルを文字コード SJIS で保存します。テキストファイル名の指定はありません。

作成した設定ファイルをテスト環境のリブーターに書き込み、CPU リセットが要求される場合は、「WRITE」コマンドの後に「CPURESET」コマンドを追加してください。

注意	変数 ipAdEntAddr(IP アドレス)を流し込み対象にしないでください。(流し込みテキストから必ずこの行は削除してください。) IP アドレス重複の原因となります。
----	---

(3) テキストファイルで作成する方法

テキストエディタを使ってファイルを作成します。
詳細取扱説明書巻末の変数一覧表から、設定を行う内容を探し手入力します。

以下のように変数の前に「.(ピリオド)」を追加し、「=(イコール)」の後に設定する値を記載します。
変数名=値

シャットダウンスクリプトの書き込みを行う場合は、スクリプトの前後に以下のコマンドを追加して記述します。

```
SCRIPT [スクリプト番号 1～4の数字]  
スクリプト本文  
ENDSCRIPT
```

【対応機種:RPC-M5CS,M4LS,M4HSi,5NC。PoE8M2 の PoE ハブ制御スクリプトに関しては SCRIPT 3～6 に書き込むことで可能です。[RSC-MT4HS,MT8FS, RPC-5NCSi, 2NCPoE は非対応です。]】

注意	script は基本的にはシャットダウンスクリプトの内容となります。 しかしながら、PoE8M2 に関しては、PoE ハブ制御スクリプトが格納されます。 (なおかつ、script3～6 に、ハブ 1～4 のスクリプトが格納されます。) そのため、上記 2 機種とその他の機種が混在して選択されている状態で script 部分への流し込みを行わないようにしてください。
----	--

最後に WRITE コマンドを記入します。
作成したファイルを文字コード SJIS で保存します。テキストファイル名の指定はありません。

作成した設定ファイルをテスト環境のリブーターに書き込み、CPU リセットが要求される場合は、「WRITE」コマンドの後に「CPURESET」コマンドを追加してください。

[3] 作成上の注意

(1) 作成上の注意

変数によっては、変更できないものやネットワークの不調の原因となるものがあります。
また、追記が必要な変数があります。

〈1〉 書込みできない変数

・Read Only の変数(MAC アドレスや状態を表す変数等)

読み取り専用の変数は書き込みを行っても反映されず、書き込み前の値が保持されます。どの変数が該当するかは、詳細取扱説明書の変数一覧表をご覧ください。

・debOlControlGTEabled(電源制御方式の選択)

電源制御方式の変更には同意が必須となります。WEB 画面で設定してください。

〈2〉 書込みに注意が必要な変数

・ipAdEntAddr (IP アドレス指定)

IP アドレスの重複が発生しないように設定してください。ネットワークに同じ IP アドレスが存在すると、著しい遅延の発生や機器への接続不良が発生します。

また、書き込みにより変更された IP アドレスを書き込みソフトへ反映させるには、改めて「LAN 上検索」を行うか、個別設定で IP アドレスを変更してください。

・dhcpEnabled (DHCP 有効化)

有効化を行うと DHCP サーバー下では自動で IP アドレスが変更されます。固定 IP で運用している場合は有効化しないでください。

〈3〉 追記が必要な変数

・スクリプト

【対応機種:RPC-M5CS,M4LS,M4HSi,5NC。PoE8M2 の PoE ハブ制御スクリプトに関しては SCRIPT 3~6 に書き込むことで可能です。[RSC-MT4HS,MT8FS, RPC-5NCSi, 2NCPoE は非対応です。】

スクリプトのはじめに、コマンド SCRIPT [スクリプト番号],
最後にコマンド ENDSCRIPT を記載します。

・WEB 画面でログインするためのパスワード

・SSH サーバーのパスワード

こちらの変数につきましては、&SAVE コマンドでの書き出しができません。

書込みを行いたい場合は、弊社までご連絡ください。

[4] 作成例

〈1〉 Ping 監視設定の場合

アウトレット 4 個の機種に対して, アウトレット1と 2 に Ping 監視を行い, 異常時は Reboot を行う設定を行う場合の例です。

アウトレット 1 : DG

アウトレット 2 : 192.168.1.100

アウトレット 3, 4 : 監視無動作, 監視先無し

監視先を上の通り, その他の設定についてはデフォルト値または設定済みの値のままとした場合, WEB 画面では以下の画像の通りになります。

この設定を設定ファイルで行う場合, 以下の 3 つの変数と値, WRITE コマンドをテキストファイルに記入し, 文字コード SJIS で保存します。

```
.debOIWdogAddr=,,,192.168.1.100
```

```
.debOIWdogAction=2,2,0,0
```

```
.debOIWdogDefGateway=1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
```

```
WRITE
```

こちらをテキストエディタに記載した場合は次のようになります。

```
.deb0|WdogAddr=,,,192.168.1.100
.deb0|WdogAction=2,2,0,0
.deb0|WdogDefGateway=1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
WRITE
```

〈2〉スケジュール設定の場合

スケジュールを以下の曜日に 8 時から 20 時まで ON にする設定を行う場合の例です。

アウトレット 1 : 月曜
 アウトレット 2 : 火曜
 アウトレット 3 と 4 : 木曜日

上記の設定は、WEB 画面では以下の画像の通りになります。

(スケジュール No.1～8 が有効かつ設定あり、スケジュール No.9～20 が無効)

スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	8	0	ON
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	20	0	OFF
3	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	火	8	0	ON
4	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	火	20	0	OFF
5	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	8	0	ON
6	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	20	0	OFF
7	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット4	水	8	0	ON
8	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット4	水	20	0	OFF
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

以下の 5 個変数と値、WRITE コマンドをテキストファイルに記入し、文字コード SJIS で保存します。

```
.schEnabled=1,1,1,1,1,1,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schDay=2,2,3,3,4,4,4,4,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schHour=8,20,8,20,8,20,8,20,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schOutletNo=1,1,2,2,3,3,4,4,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schAction=2,3,2,3,2,3,2,3,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
WRITE
```

こちらをテキストエディタに記載した場合は次のようになります。

```
.schEnabled=1,1,1,1,1,1,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schDay=2,2,3,3,4,4,4,4,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schHour=8,20,8,20,8,20,8,20,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schOutletNo=1,1,2,2,3,3,4,4,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
.schAction=2,3,2,3,2,3,2,3,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
WRITE
```

〈3〉スクリプトの設定の場合

【対応機種:RPC-M5CS,M4LS,M4HSi,5NC。PoE8M2 の PoE ハブ制御スクリプトに関しては SCRIPT 3～6 に書き込むことで可能です。**[RSC-MT4HS,MT8FS, RPC-5NCSi, 2NCPoE は非対応です。]**】

Windows 用シャットダウンスクリプトをスクリプト番号 3 に書き込む場合の例です。

スクリプトのはじめに、コマンド SCRIPT [スクリプト番号], 最後にコマンド ENDSCRIPT を記載します。文字コード SJIS で保存します。

```
SCRIPT 3
TELNET
timeout 600
1:
recv 10 exit 99
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 99
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit
ENDSCRIPT
```

こちらをテキストエディタに記載した場合は次のようになります。

```
SCRIPT 3
TELNET
timeout 600
1:
recv 10_exit 99
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10_exit 99
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3
send "shutdown /s%r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit%r"
exit
ENDSCRIPT
```

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町 1-1-14

東京フェライトビル 4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<https://www.meikyo.co.jp/>

ご注意

- (1)本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2)本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4)本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5)本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6)弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

MRC-Setting

取扱説明書 2025 年 2 月 第1.0b 版

版權所有 明京電機株式会社